

共通の部分を見つけて学ぼう

新しい指導を考える会

書写の学習で目ざすべきものは何でしょうか。

山梨大学教授の宮澤正明先生によれば、書写に求められることは、「個別の文字の完成度を高めるのではなく、あらゆる文字を正しく整えて書くことができる方法（原理・原則的基準。書写の基礎基本と考えることもできる）を習得し、社会生活におけるさまざまな書写活動に対応できる書写能力の向上」であり、言い換えれば、「文字を正しく整え、さまざまな書式、形式に適切に書くための普遍的な原理・原則及び技能の習得にある。」とあります。

つまり、「文字を正しく整えて書くための知識を理解すること、それをふまえてさまざまな文字を書くことで応用力を養うこと」を旨とすること」が、書写の目ざすものという考え方です。（※）

ここでは、平仮名、片仮名、漢字をいくつかの視点で共通部分を見つけ、書写の学習を考えてみたいと思います。

I 平仮名編

平仮名は、漢字の草書体が略化された文字であるので、そのことをふまえて書く必要があります。そのためには、次のような指導をするとういでしょう。

3 「外形」で分けてみる

平仮名の外形は大体が正方形ですが、正方形でない平仮名は何かについて、五つの字形にまとめてみたいと思います。

- (1) 縦長の長方形
う・き・く・し・ち・ま・も・よ・ら・り
- (2) 横長の長方形
い・つ・へ
- (3) 三角形
え・ふ・み・る・ろ・ん
- (4) 逆三角形
す・そ・て・や
- (5) 円に近い形
ぬ・の・め・ゆ

II 片仮名編

片仮名は、漢字や漢字の一部をとってできた文字であるので、そのことをふまえ、基本的には漢字と同じように書くことが必要です。ただ、漢字に比べて単純な字画になっているため、一画一画の果たす役割が大きいため、次のような指導をするとういでしょう。

○点画の位置、方向、長さを指導する

○似た字形が多いので、点画の書き方に注意し、誤字や別の文字にならないように指導する

○文字の形（外形）を指導する

○直線的な点画の漢字に対して、曲線的な（丸みのある）点画であることを指導する

○「向かい合う点画」「曲がり」「結び」「折れ（折り返し）」などを指導する

○文字の形（外形）を指導する

1 「はね」のある文字は一字だけ

平仮名ではねるのは、「か」の一筆目だけです。それ以外は、すべて筆脈であり、次の点画に続くために線となって表れた「はね出し」であり、付加的な要素です。したがって、「か」の「はね」のようにはねなければ誤りというものではありません。

それでは、「はね」のように見える文字はというと、「い（二筆目）、き（三筆目）、け（一筆目）、こ（二筆目）、さ（二筆目）、せ（二筆目）、た（三筆目）、な（三筆目）、に（二筆目・二筆目）、は（二筆目）、ふ（二筆目・三筆目）、ほ（二筆目）、や（二筆目）、ら（二筆目）、り（二筆目）」が、挙げられます。

これらの平仮名は、はねとは区別し、次の点画に続くための線「はね出し」と理解して書くことが大切です。

2 「結び」の形で分けてみる

(1) 最後に「結び」がある場合で、横長に結ぶ平仮名
な・ぬ・ね・は・ほ・ま・よ・る

(2) 途中に「結び」がある場合で、三角形に結ぶ平仮名
お・み・む・す

1 点画の位置・方向に注意して

- (1) ソ・ン
- (2) シ・ツ

※平仮名の「し」と「つ」の字形と関連させて指導すると、二つの点の位置や方向、三画目の方向が理解しやすくなります。

2 似た片仮名を集めてみる

- (1) 二画目の長さや方向、終筆の違い
ア・マ・ヤ
- (2) 折れの方向、長さの違い
コ・ユ
- (3) 点や画があるかないかの違い
ウ・ワ、ク・タ、ノ・メ
- (4) 画の方向・終筆の違い
ク・ワ
- (5) 筆順、画の方向の違い
ナ・メ など。

3 漢字とほぼ同じ形と考えてよい片仮名を集めてみる

エ・エ（こう）、カ・カ（ちから）、タ・タ（ゆう）、ニ・ニ（に）、ロ・ロ（くち）

4 漢字や平仮名との区別が必要な片仮名を集めてみる

(1) 漢字との区別が必要な片仮名
チ・千（せん）、ハ・ハ（はち）、ホ・木（き）、ミ・三（さん）





自分の名前から、左払いを見つける。



- (2) 左払いを四つに分けてみる
- ① 短く横に払う
千・𠂔(二画目)、イ(ぎょうにんべんの二画目)、禾(のぎへんの二画目) など。
- ② 四十五度の方向に払う
大部分の左払い
- ③ 途中まで(交わるところ)まっすぐで、その後、左の方向に払う
火・大・夫・天 など。
- ④ ずっとまっすぐで、最後だけ左の方向に払う
月 など。



- Ⅲ 漢字編
- 漢字は、平仮名や片仮名よりも画数が多いため、正しく整った文字を書くためには、いろいろな要素を含んだ原理原則をふまえて書くことが必要です。そのためには、次のような指導をするとよいでしょう。
- 点画の長短を指導する
 - 点画の方向(「左払い」「折れ」など)を指導する
 - 画と画の間(画間)は等分割を指導する
 - 文字の組み立て方(「左右」「上下」「かまえ」「たれ」「にょう」など)を指導する
- 1 点画の長短
- (1) 「女(おんな)」がある漢字は、その漢字の横画の中で「女」の最終画を最も長く書く
- 安・委・案・要・妻・姿

- (2) 平仮名との区別が必要な片仮名
へ・へ、り・り
- 5 「外形」で分けてみる
- (1) 縦長の長方形
イ・キ・ク・タ・ト・ノ・ミ・リ
- (2) 横長の長方形
エ・ニ・ハ・ヘ・ユ
- (3) 逆三角形
ア・ウ・ケ・サ・ソ・マ・ワ・ヲ

おわりに

今回取り上げた例は、ほんの二例です。基準となる文字で習得したことを、他の文字に活用する力をつけ、日常生活でも使えるようにすることが書写の学習のねらいです。

書写の指導の中で、このことをいつも念頭に置いて授業を進めたものです。

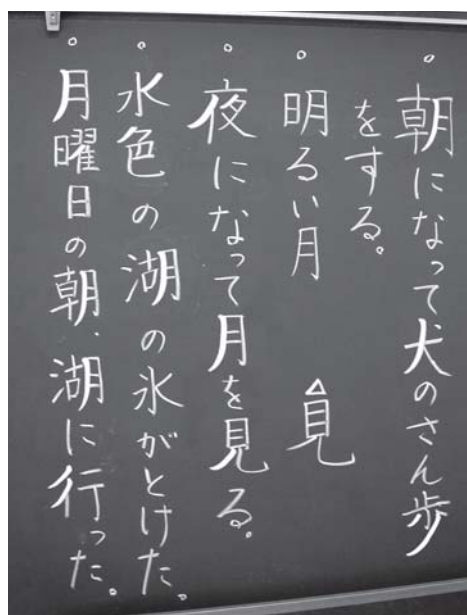
【参考文献】

・ 全国大学書写書道教育学会編『書写指導(小学校編)』(萱原書房)

・ 氷田光風監修『毛筆書写指導の方法』(光村図書)

【補注】

※ 光村図書「小学校国語教育相談室 No.44」連載「書写」って、こんなに
おもしろい！



短文をつくる。



「日」が部分になったとき、縦長の「日」は真下に折れ、横長の「日」は内側に折れる。



② 内側に折れる

口・言・田・由・車・里・白・皿 など。



2 点画の方向

- (1) 折れを二つに分けてみる
- ① 真下に折れる

目・貝・見・頁・自・月 など。